



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



- 楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
- 正しく めあてを しっかり守る
- たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより



ためし



令和7年6月27日号 文責 上久木田 雄二



言い訳の論理

担任に代わりに、子どもたちに指示を出したり、指導をしたりすることがあります。

私の話の後の子どもたちの返事の中に気になるフレーズがあります。

なんで?
ムリ～～

このとき、子どもたちには、理由を聞きたいとか、能力的に難しいとかという気持ちは、ほぼありません。

子どもたちの本心は、

したくない
従いたくない

であることがほとんどです。

大人の意見に反抗的な態度をとることを良しとする考え方や歯向かうことで自分の優位性を周りに知らせたい考え方に基づくものだと考えられます。

この思考には、思春期は関係ありません。これは完全な「思考のくせ」です。いったん、「相手の出方を見る」「相手を試す」という、ずるい行為です。厳しい言い方なら、「わがまま」です。

家庭や友達と遊んでいるときに、このフレーズを子どもたちが言うことはないでしょうか。もし、こんな言葉を使うようであれば、

他人に対する言葉づかいではない
他人に対して失礼な話し方である

ことを、毅然と諭してください。親に向かって言う言葉ではないですし、ましてや小学校という「小さな社会」の中で発する言葉ではないことを真剣に伝えてください。

特に「ムリ」と言うときは要注意です。

失敗の可能性に対する保険
いい加減に対応するための布石

の可能性が高いのです。

努力をしないでいいような環境を事前に作り上げようとする中で、自身の存在を優位に保つ行いは、すぐにでも止めさせたほうが良いと私は考えています。

お子さんが、「なんで？」を繰り返したり、「ムリ」と言わないと次の行動に移せない場合は、ぜひ学校にご相談ください。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」



長崎っ子の心を育む教育実践